

WEBRONZA

WEBRONZAとは? 商品のご紹介 RSS

マイコンテンツ

政治・国際 | 経済・雇用 | 社会・メディア | 科学・環境 | 文化・エンタメ | スペシャル | シノドス | ブロガー | Global | WEBRONZA+

WEBRONZA+ 科学・環境 高橋真理子 記事

WEBRONZA+

政治・国際 | 経済・雇用 | 社会・メディア | 科学・環境 | 文化・エンタメ



忘年会シーズンに恐縮ですが、アルコールの害のこと

高橋真理子 2012年12月22日

ライフスタイル | 消費 | 生命・医療 | 税金

retweet 0 | おすすめ 4

忘年会、そして間もなく新年会と、お酒を飲む機会が多いときに無粋を申して恐縮ですが、実は、アルコールの有害使用を減らそうという動きが世界的に起きています。タバコが健康に悪いことは広く知られるようになりましたが、そのタバコの害よりも何とアルコールの害の方が世界全体で見れば大きいのです。そうと知れば、何とかしないとまずいと思いませんか。

害の大きさを測るのは、それほど簡単なことではない。世界保健機関(WHO)が病気や事故などが社会に与えるダメージの大きさを表す指標としてよく使っているのが、DALY(ダリー、disability-adjusted life year)だ。「障害調整生命年」と訳されることが多いが、これだと意味がとりにくい。「寿命・健康ロス」というのが、内容をよく表す日本語だと思う。

DALYは、寿命ロスと健康ロスを足し算したものだ。寿命ロスは、「死が早まることで失われた生命年数」だ。例えば50歳で亡くなった場合、50歳の平均余命がこれにあたる。健康ロスは、「病気や障害を抱えて生きるせいで失われている生命年数」として計算される。状態が安定するか死亡するまでの期間に、その間の「健康が損なわれている度合い(0~1の数値で表す)」をかけ算して出す。

この度合いをどう決めたいかは90年代から研究が続けられ、主な病気や障害については数値が定まっているという。このルールに従って、たとえば糖尿病はこれぐらい、うつ病はこれぐらい、と計算できる。米国などでは、より適切な保健医療対策を立てるためにDALYを参考にしている。

WHOが昨年発表したアルコール白書が、19のリスクファクターのDALYを紹介している。低所得層で「寿命・健康ロス」をもっとも大きくしているリスクファクターは、子どもの低体重だ。高所得層では、タバコをもっとも大きい。低所得層はタバコを買う余裕もないのだろう。そして、中所得層でロスをもっとも大きくしているのがアルコールだ。すべての所得層を合計してみると、アルコールによるロスはタバコよりも大きい。

アルコールの有害使用は、毎年、250万人の死を招いている。15~29歳の若者32万人がアルコール関連の原因で死んでおり、これはこの年代の死因の9%を占める。アルコールは、暴力や子ども虐待、育児放棄や職場放棄といった深刻な社会問題とも結びついている。WHOの白書は、そう伝える。

WHOは2010年5月の第63回総会で「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」を決議した。これを受けて、日本でも「アルコール関連問題基本法」を作ろうという動きが出た。東日本大震災のために活動はいったん中断したが、2011年暮れにアルコール問題関連議員連盟が基本法制定推進を決議するなど、再び活発になってきている。

アルコールの社会的コストを推計した厚生労働科学研究(2012)によると、治療などの直接的成本が約1兆円、病気を持つことによる労働損失、死亡による労働損失などの間接的成本が約3兆円、合計で4兆円余りになる。これは2008年度の酒税収入の約3倍にあたる。

アルコール依存症の専門家、久里浜医療センターの樋口進院長は、日本のアルコール政策の特徴を「酒類の需要や供給に関する規制がほとんどないこと」と指摘する。たとえば、広告規制はメーカーの自主基準のみで、スポーツイベントなどについてのスポンサー制限もない。お酒の販売店の数は多く、24時間365日、いつでも買える。値段も比較的安い。一方、未成年

者飲酒禁止法があること、飲酒運転が厳しく取り締まられていることなどは、世界的に見て優れているという。

WHOがタバコ規制枠組み条約を採択したのは、2003年だった。2005年に批准国が40になって条約が発効し、日本政府の対応は遅々としていたとはいえ、世界的にタバコ対策が進んできた。次はアルコール、というのが世界の流れである。

酒税のかからない発泡酒の開発は、アルコール対策という視点から見れば歓迎できない。酒の値段はなるべく高くするのが、対策の王道だからだ。これにはメーカーも消費者も反対するだろうから、一筋縄では進まないだろう。だが、少なくとも「酔ったうでの失態は大目に見る」という日本文化は一刻も早く変えていくべきだと思う。

プロフィール

高橋真理子(たかはし・まりこ)

朝日新聞編集委員。1979年朝日新聞入社、「科学朝日」編集部員や論説委員(科学技術、医療担当)、科学部次長、科学エディターなどを務める。著書に『最新 子宮頸がん予防——ワクチンと検診の正しい受け方』、共著書に『独創技術たちの苦闘』『生かされなかった教訓—巨大地震が原発を襲った』など、訳書に『ノーベル賞を獲った男』(共訳)、『量子力学の基本原理解 なぜ常識と相容れないのか』。

高橋真理子の新著記事

「1票の格差」解消に、数学者よ立ち上がれ(2012/12/20)

水の除染は不要なのか?(2012/12/11)

点検ではなく、天井取り外しが必要だ: 量子トンネル崩落事故(2012/12/04)

古びないクストー氏の言葉: 第1回科学ジャーナリスト世界会議から20年(2012/11/26)

やっかいな放射線と向き合って暮らしていくために(2012/11/14)

[高橋真理子の記事一覧へ](#)

[サイトポリシー](#) | [リンク](#) | [個人情報](#) | [著作権](#) | [利用規約](#) | [特商取引](#) | [会社案内](#) | [広告掲載](#) | [サイ](#)

「WEBRONZA」は朝日新聞社の登録商標です。

WEBRONZAに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により
Copyright ©2012 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without